

© The Tiffen Company, 2000

COMMON PASTELINES

NOUAK
LICENSED PRODUCT

Blue

Cyan

Green

Yellow

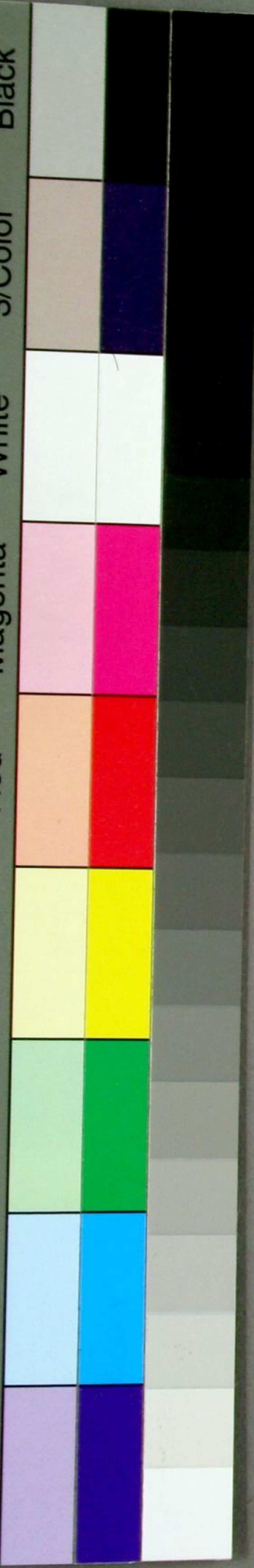
Red

Magenta

White

3/Color

Black



養正齋文集

2939
1



0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1

2

3

4

5

6

7

8

9

0

1

JAPAN

TAMBA

へ13 竹
2939
1-6

別

山

種

七
九
日
購
水

長門

明十

改十明



自序

うきこ

あざむ

せり

浮世に遠き山位あざむの春をかざり雪せり



中ちゆうよまの頼母たのぼしき冬ふゆ至梅つばき其香そのか

はゆの白梅あけうめの園かみをてしを紫むらさ

折をり戸と尔卧就がりまが隆中りゅうちゆうに戈智かちあはれ

節ふし知しる真まの梅うめ一ひと見み持もつ花はなを

冬

五年以采^り取^と販^{ばい}元^{げん}画^え工^{こう}の丹^{たん}誠^{せい}子^し木^き好^{こう}
 三^{さん}毛^{もう}仕^し上^{じやう}一^{いつ}枝^{えだ}一^{いつ}枝^{えだ}やうやく^{やうやく}香^{かう}をり
 の高^{たか}一^{いつ}なる一^{いつ}年^{ねん}毎^{まい}に着^{ちやく}信^{しん}於^お
 まじりく一^{いつ}と一^{いつ}ひ一^{いつ}ひ一^{いつ}法^{ぽう}の^のま^まあ^あま
 深^{ふか}山^{さん}木^ぎを園^{えん}ふらう一^{いつ}一^{いつ}文^{ぶん}永^{えい}堂^{どう}の壽^{じゆ}
 様^{よう}の中^{ちゆう}年^{ねん}一^{いつ}株^{くわ}乃^の根^ね強^{かう}き一^{いつ}品^{ひん}とあ^あり
 惠^{めぐみ}ノ序^{しゆ}一^{いつ}

一^{いつ}つこのようあ^あび^びみ^み此^{こゝ}花^{はな}の根^ね分^わり^り繼^{つぎ}
 補^{おほ}の年^{ねん}又^{また}をせ^せよと文^{ぶん}好^{かう}ある法^{ぽう}得^{とく}意^い
 乃^のは^はあ^あな^な任^{にん}き一^{いつ}ま^まし^し一^{いつ}ま^まひ^ひく^く連^{れん}
 中^{ちゆう}花^{はな}ぶ^ぶ後^ご若^{わか}や^や春^{はる}の^の一^{いつ}趣^{しゆ}向^{かう}
 過^あ且^{かつ}歳^{さい}と^と梅^{うめ}ぶ^ぶみ^みつ^つら^らづ^づ一^{いつ}
 溪^{けい}齋^{さい}が^が久^く一^{いつ}づ^づり^りと^と溪^{けい}齋^{さい}を^をい^いづ^づ

雲宵や初音の鶯名やさしに美姿
うらやま はつね うぐいす うぐいす うぐいす うぐいす
 字はしるも米八於蝶此をさすは
あざな あざな あざな あざな あざな あざな あざな あざな
 なる恵の花恵ハ別者官の恵哉
あざな あざな あざな あざな あざな あざな あざな あざな
 祈る族端六冊全傳拾遺結実入
あざな あざな あざな あざな あざな あざな あざな あざな
 子あつて粹なる人の氣はもつて
あざな あざな あざな あざな あざな あざな あざな あざな
 塩梅の上は法評判をいづく枝子
あざな あざな あざな あざな あざな あざな あざな あざな

惠ノ序ノ二

願ふふとふあんありけり

申は孟陽

金龍山下狂訓亭

為永春水誌



妓院ふ生長と 唐琴屋浦右門娘

貞めくまきこ
色香も深く

一旦の薄命ハ

あま雪中めむ

梅のいさをし

人情ふとくば則

節操の功とらえ

早く暖睦月すくく
子延亭
万枝

ふゆけし梅

梅およそ小枝

聖教を伝へんとす

香をぬくむ梅は惠顔も春風

かこ後ぞく白ふそ那乃口紅

香合れ袖の薫りの梅の香を

あまのこころは 瑞回の紅長

琴通舎英賀

惠ノ年ハ



第一の美婦人あり

梅暖々

久々梅の影

室の影

子延亭万枝

唐琴屋

養子

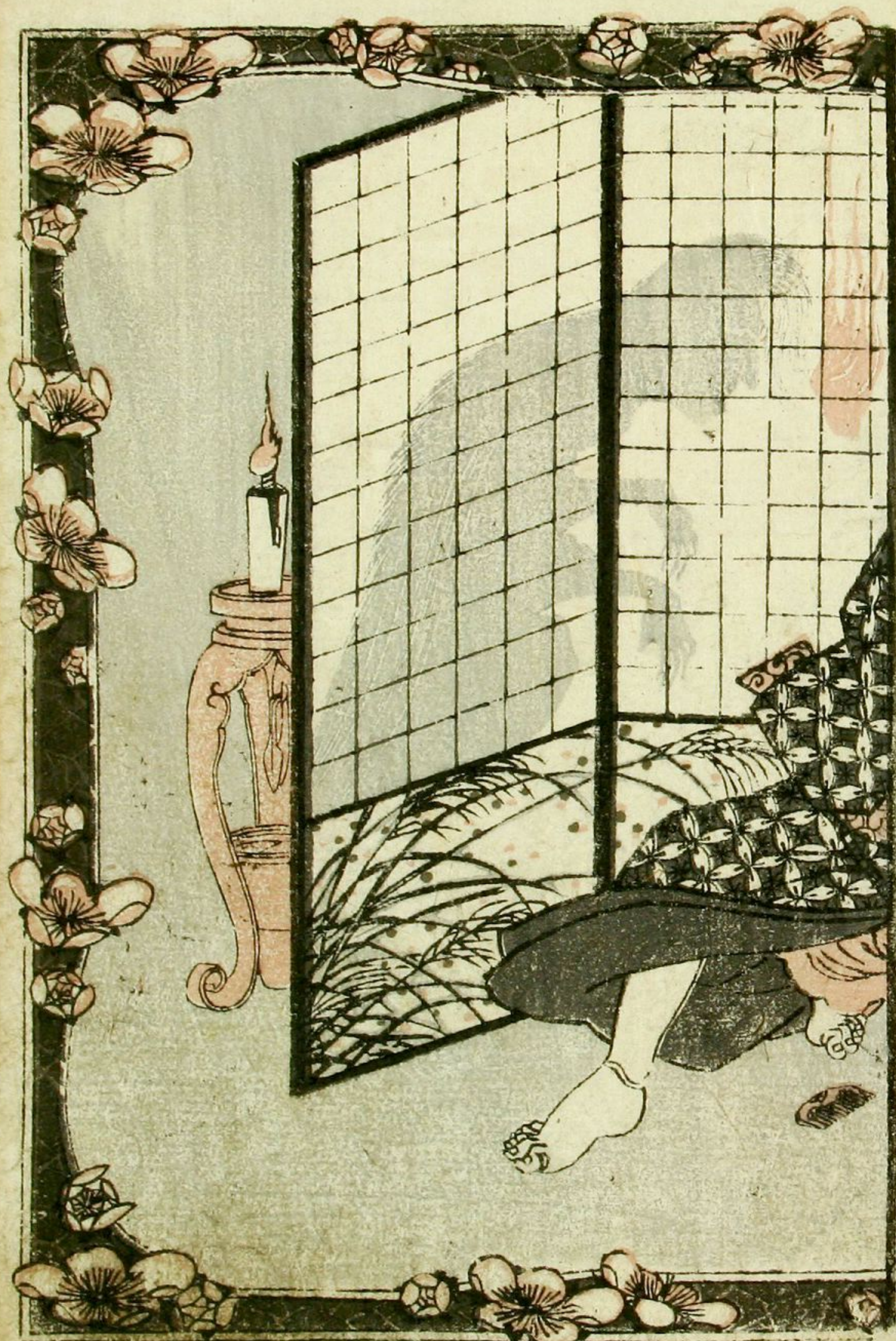
丹次郎



唐琴屋の

内藝者
よ縁八

后巴の
大達者まご
北窓の寒く
いづれぬ梅の
其香はめでさく
蒼の節より
うをらまてる梅曆中



中野郷造の
食客
半次郎

此系との全盛の
中郷の
ありたる節ふくも契る

中郷の
か系

中の郷の
兩夜の怪談

後花園

子よ

香をりく

梅を那

玄二樓東和



春色惠の巻卷之一

江戸 狂訓亭主人著

第一回

萬葉集の梅のまどと定めりし一梅成ると
補するを候ふ後のもぞりしその急も角も梅がまの
かろりと恋をくゆりしもあふ親をこそ一回の物さうの
ひのくのあとあて湯倉の北の旁小いと腰穴した
又街一廊ありけあがま申小唐琴屋浦をあのとはのえ

廊は名は若葉 若葉留りせん方もなく
仁義のあらはれ抱へし 遊女とあるのあらはれ
不便なるといふをせけるがうあるは世の物来ぬや推し
の落命かさるりまは他の業もて損受つた日けうの
間み内命のふれ合とあり 浦志島つくとは成るもやふ
世にあらまその妻お核とらん家のめあはれまらみ月日成
るをうぐりゆく 肉體むらうしく 備合のもまうるを
りこめあらはけるが中あ子丹は丹とりよのあれとえ美人の

種より生る心かきしれまらり 利成むとわらふらと
しれ業ともひも意熱あつけまば何あともあもあれ不
けあめあき難きとまかまどりらうとたれ 親縁と通せ
とら成まきひ 徳成縁とと教く ありともああ時を換
え多くあうら後のはるを看まをの 婿縁のそしりあ
うら成地は似合ぬ 母子のにむがかへりて 唐琴のあ
とら成まらありとまどとさうに 家業がうあまあ
廊のまは地 娘お長は 浦志島の 柳若まて 伴若の 柳若あ

も連言抱への宛囀女之人あふかりゆくつらげのこ小き海通ふををみ
主流も今日もあま秘多奇よまゆり内刻と区刻と厚たと自けいこ
牌の部乃人の事甚谷の記書の中見世紙通りかろせん
多々若務次お長おむらげんお長さんけりるの人形あつこせの似魚とよのむあや
事き一上まきぞい芝紙ちろび他へきるのあお長あや
りろが梅枝の奴をきくあひ似合ふ中よまきろあむらあや
とサああんよ友松ざらう子へあろーちろりて怪供あや
おげよ入しりあろあ似魚人形茶番真の御あや之を人しあや變

うる泉目者が見え世へさちよりあ一あさんまどお長あやるいり
かきへイ大蛇の御をくありきあ一まろ何志をぢああーらあ
ひんちまけんうあ日又日のうちよお長あまけんあいけあるお長あ
のかげいそのの人の形のおまきあまけんあいけあるお長あ
とへまやこいひ子へアノ首あお長ああんお長人あお長あの
らへお長あまけんあお長ああんお長ああんお長ああんお長あ
あぐろんかろ折ろあ唐琴屋のあお長あ子丹あお長あお長あの

朱八と前より後小あり集りてか長坂又てぶらり
 赤一丹一お米とりひまごうめへ南野道の旁へ川
 流るる後次へと長坂あつと又とどもあつぬ魚お長ハ
 石なるれが流もつて一サまのらう一ア一をがよ後へ。又
 ぢやアをやへお程そ中まへ一ハ一ハ三両川のおちひの何百とま
 橋へまどおとるのヨ一そふう子どよぞ道見とまらるるもの
 ぞ一橋へ方板ひひませうハ方板るうハらるるひとて雷
 門坂板並木の方へきそや道中女の癖あるまは他の

鳴や往來の男の長おあま定めち地かうある酒場へ氣小
 自惚をあのゆきまよる一橋へそまじりつ子どよも物と男や好風
 男の氣をくめさる氣があつてろくお物ものをもとまへりのご子へ
 その癖おあまさんごら一おあまさんあるけいほどまへ入るお
 あると男おあまさんごらの中へ一ア一ア一おあまさんおのひひお
 くおヨ一橋へか長さんお身へ丹さんがよぬの大文おあまのま馬
 さんご好く一おあまさん草双紙や中本の作おあまの面白
 らうと一橋へ一おあまさんおあまさんおあまさんおあまさんおあまさん



踊道具
御談向怪談物語
目吉



新工
お蝶
丹次郎
情人
燭

まり他がくもくも看勝ひ不どりゆらうい多があまきひ
小がえ ちまうろー
不沙女 不沙丸の結うらを足てわろ 秘どりでせ入あまき
と死 ちまうと うち
岸がわらううまふ人の宅あう ぶんあごうとあひまをヨバ
あま ちまの
あまも 此糸さえが仲の町へ往あうに路を表ざー死の本園へ
たうら ちま
送へく米八さんと若旦那ととんあでとんあまうとらう若
旦那 ちま ちま
旦那の遺体あまむのて 奥の上へ汗あるがーておんさー死
とーと居さるちまの米八さんい若旦那の番と引操かーと
編 息といまをちまのて後あまのあう 居さるうらう西
ちま ちま ちま ちま ちま ちま ちま ちま ちま ちま

物の氣もつらむおわーと 織よるのきくおのり
まーまや 望望とてえ 大さな箱でございませうヨト
第のくおむらふより 福川新屋 橋次郎 ちま ちま
敷く 柳若古ううモウく おそひく 橋まや 新若さんあ
あま ちまトおむるさあお入 ちま ちま ちま ちま ちま ちま
ちま ちま ちま ちま ちま ちま ちま ちま ちま ちま
の丹は常すご年ゆね ちま ちま ちま ちま ちま ちま
振むるあまご 柳若次よそまことさうられまドといひま

今日ハ思ひきろく 舞々、小を結て見せる由意の勢
あけしきとわけて 早足な路へかへるハ身心も投るといふ
風情紙はよりを丹江糸なそれと思へするふくさ
あり丹江糸もまねるといふ初とらぐる米八の路をたひ
人目と輝くも 米後んき 丹江糸お米く、タイ米ハ
こせく、ト自てゆ、子供管管、けきどもともか
めのおうへひあき 利屈も道理もあふる六判あるの
りあつ、はらあき 徳意のごぞん、ドあふ、

第二回

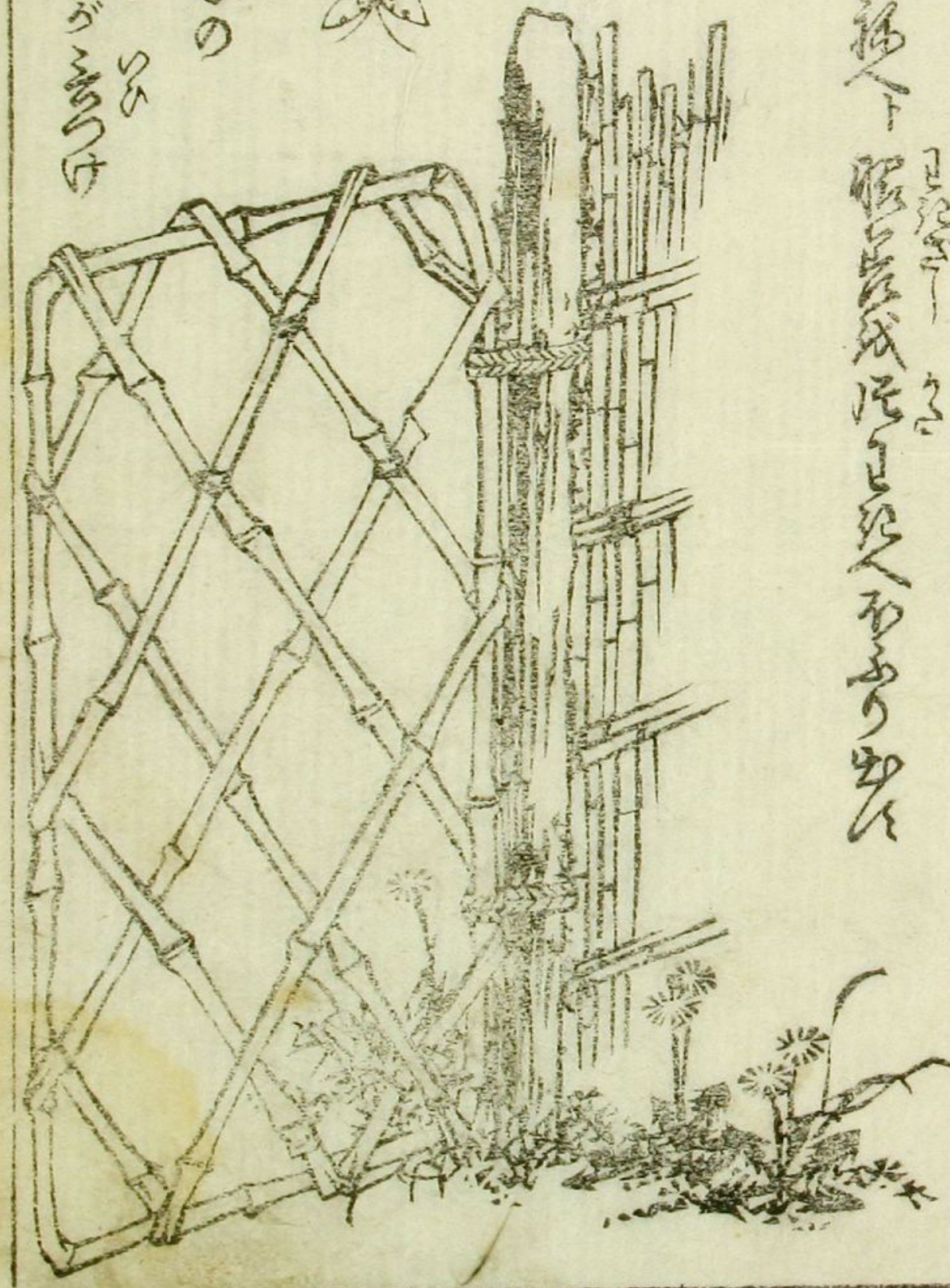
丹江糸く 機中や今のりのと平足人そり 長身てきり
そのまじり、あつと、向ふ、機さしての、
山の表門の機よ、並井、徳意さんとり、人相とる、
まの、は、あ、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、
えん、せ、せ、せ、せ、せ、せ、せ、せ、せ、せ、せ、せ、せ、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

赤申人 丹上之 今の新仁と申す又その時分小居るを感休
 の下なるに生れし一男也之れ毎付街へさうおれけり
 米一斗 赤根のせしめりさるるを気が付きて自ん押分若く
 丹一斗ニや喰はさるの辨へはまも差やと申して居りや
 さうでございせん丹一斗をさうしつぐもめ人今逢う何れ
 しゆらうこのせしめ一斗のせしめと申すしや丹一斗
 むらゝと申く一掴むと申すやアアと申すほど死ころア殺
 しやゆらうアアと申す後トも必捕するりやせり折る

丹の善花日記人 丹上いこのミヤキん身四番さるの
 月夜をいづいままトリのなぐる善花のちやうくさうくと
 送人申す米八のトリリとて飛退丹は舞も周舞にさし申
 ぐく 善花の御心をいづいまのけが何れや相ごとく申す
 いらぬをいづいまのけが 一斗いさやうあるがとて来りさる
 ともの下なるに生れし一男也之れ毎付街へさうおれけり
 赤申人 丹上之 今の新仁と申す又その時分小居るを感休
 の下なるに生れし一男也之れ毎付街へさうおれけり

丹ハ三びりくらをまきうめがわりのうち米ハそまをた
 勢来るがうはまきゆきまきえりの取丹ハそれハそのまがとち
 かりうらのみおまきくさぐさみんま草屋でうらヨトリのみ
 がうらうら米ハの側ハうらうらわたりて居るまは衣道の
 入り口のまは草屋の竹の本戸と押さえておくまは移入
 ついてえの草ハ入るまは米ハと押さえておくまは移入
 移入丹ハうらうら移してわらう米ハと移入ハサウ
 うらうら移してわらうその方がまがわりのまはうらうらヨト

丹ハ三びりくらをまきうめがわりのうち米ハそまをた
 勢来るがうはまきゆきまきえりの取丹ハそれハそのまがとち
 かりうらのみおまきくさぐさみんま草屋でうらヨトリのみ
 がうらうら米ハの側ハうらうらわたりて居るまは衣道の
 入り口のまは草屋の竹の本戸と押さえておくまは移入
 ついてえの草ハ入るまは米ハと押さえておくまは移入
 移入丹ハうらうら移してわらう米ハと移入ハサウ
 うらうら移してわらうその方がまがわりのまはうらうらヨト





甘米ツツク一田舎ツツクどうろツツク他ハ米ツツクあひとツツク思ツツクいツツク思ツツク思ツツク思ツツク
ふゆツツクあうツツクこツツクがツツクおツツク入ツツク多ツツク附ツツク焼ツツクあツツクるツツクをツツク一ツツク斤ツツク二ツツク目ツツクをツツク由ツツク香ツツク米ツツク
マヤツツクらんツツクよツツクおツツク茶ツツク以ツツクわツツクげツツク申ツツクうツツク秘ツツク入ツツクトツツク茶ツツクとツツクんツツクとツツクさツツク一ツツクりツツクんツツクが
「也ツツクもツツクのツツク也ツツク」ツツク丹ツツク「ツツクオツツクキツツクくツツク一ツツク本ツツクやツツクうツツクそツツクうツツクよツツクめツツクんツツクのツツクしツツクのツツクやツツク」ツツク米ツツク
さツツクらツツクずツツクまツツク 丹ツツク「ツツクしツツクじツツク小ツツク見ツツクをツツク成ツツクすツツクるツツクかツツクやツツクらツツク居ツツクねツツクせ
米ツツク「ツツク三ツツクおツツクやツツクらツツク小ツツク入ツツクとツツクさツツクまツツクんツツクのツツクうツツクおツツクまツツクをツツクしツツク小ツツクまツツクるツツク入ツツクんツツクが
丹ツツク「ツツクあツツクれツツクはツツクらツツクくツツク」ツツクおツツクれツツクさツツク馬ツツク鹿ツツクよツツクあツツクらツツクをツツク居ツツクるツツクくツツクさツツクふ
多ツツクトツツク亭ツツクまツツクのツツク亭ツツクまツツクのツツク中ツツクうツツク小ツツクまツツクるツツクのツツクのツツクトツツクしツツクもツツクれツツク米ツツクハ

ぞツツクのツツクとツツクすツツクるツツク積ツツクらツツクまツツクうツツクけツツクれツツクどツツク不ツツク懸ツツクらツツク一ツツクくツツク甚ツツク氣ツツクでツツク居ツツクるとツツクも
りツツクんツツクとツツクどツツクばツツクまツツクしツツクめツツクふツツクちツツクらツツクをツツク 米ツツク「ツツクマツツクヤツツクらんツツクとツツクうツツクよツツクなツツクいツツクうツツクひツツクでツツクあり
まツツクまツツクヨツツクくツツク不ツツク入ツツクあツツクいツツクをツツク成ツツクつツツクらツツクせツツクうツツクとツツク思ツツクひツツクくツツクあツツクらツツクおツツクまツツクるツツクのツツク手
そツツクんツツクあツツクらツツクもツツク思ツツクひツツクのツツクまツツクいツツクのツツク成ツツクたツツクんツツクぐツツクらツツクあツツクくツツク 捨ツツクらツツクるツツクこツツクらツツクけ
あツツクらツツクいツツクうツツクけツツク一ツツクしツツクうツツクいツツクまツツクはツツクらツツクヨツツクトツツク思ツツク傷ツツクうツツク一ツツクくツツクりツツク丹ツツクはツツク舞ツツクの
あツツクらツツクもツツクちツツクねツツクいツツクうツツクてツツク 丹ツツク「ツツクんツツク子ツツクくツツク一ツツクまツツクいツツクらツツクうツツクがツツクなツツクらツツクまツツクいツツクも
ハツツク一ツツクのツツクおツツクらツツクのツツク出ツツクをツツクあツツクくツツクさツツクらツツクまツツクらツツクのツツク成ツツクあツツクらツツクとツツクまツツクるツツクまツツクいツツクん
舞ツツクまツツク 米ツツク「ツツクよツツクをツツク成ツツクあツツクはツツクるツツクかツツクらツツクねツツクくツツク何ツツク時ツツク私ツツクがツツクそツツクんツツクるツツクりツツクがツツクあり

まー^も丹^{たん}いり^{いり}せも^もあ^あれ^れキ^キド^ドレ^レその^{その}絶^絶實^實瓜^瓜又^又せ^せかう^{かう}ト
 米^{こめ}ハ^ハせ^せり^りさ^さる^る 米^{こめ}ハ^ハレ^レサ^サる^る 米^{こめ}ハ^ハお^お茶^茶瓜^瓜を^をあ^あら^らし^しめ^め丹^{たん}ハ^ハ糸^{いと}
 の^の香^かけ^けー^ー茶^茶を^を揉^もて^てさ^さみ^み娘^{むすめ}ー^ーそ^その^のま^まま^まま^まの^のま^まま^まま^まの^のま^まま^まま^ま
 り^りせ^せニ^ニト^トニ^ニト^トの^のま^まま^まま^まま^まま^まの^のま^まま^まま^まま^まの^のま^まま^まま^まま^ま
 米^{こめ}ハ^ハせ^せり^りさ^さる^る 米^{こめ}ハ^ハレ^レサ^サる^る 米^{こめ}ハ^ハお^お茶^茶瓜^瓜を^をあ^あら^らし^しめ^め丹^{たん}ハ^ハ糸^{いと}
 の^の香^かけ^けー^ー茶^茶を^を揉^もて^てさ^さみ^み娘^{むすめ}ー^ーそ^その^のま^まま^まま^まの^のま^まま^まま^まの^のま^まま^まま^まま^ま
 り^りせ^せニ^ニト^トニ^ニト^トの^のま^まま^まま^まま^まま^まの^のま^まま^まま^まま^まの^のま^まま^まま^まま^ま
 米^{こめ}ハ^ハせ^せり^りさ^さる^る 米^{こめ}ハ^ハレ^レサ^サる^る 米^{こめ}ハ^ハお^お茶^茶瓜^瓜を^をあ^あら^らし^しめ^め丹^{たん}ハ^ハ糸^{いと}
 の^の香^かけ^けー^ー茶^茶を^を揉^もて^てさ^さみ^み娘^{むすめ}ー^ーそ^その^のま^まま^まま^まの^のま^まま^まま^まの^のま^まま^まま^まま^ま
 り^りせ^せニ^ニト^トニ^ニト^トの^のま^まま^まま^まま^まま^まの^のま^まま^まま^まま^まの^のま^まま^まま^まま^ま

袖
十五

十七^{じふしち}の^の處^と女^めさ^さの^の秘^ひら^らー^ーく^くも^も如^{ごと}在^ある^る死^しの^のあ^あら^らぎ^ぎや^やか^か
 米^{こめ}ハ^ハせ^せり^りさ^さる^る 米^{こめ}ハ^ハレ^レサ^サる^る 米^{こめ}ハ^ハお^お茶^茶瓜^瓜を^をあ^あら^らし^しめ^め丹^{たん}ハ^ハ糸^{いと}
 の^の香^かけ^けー^ー茶^茶を^を揉^もて^てさ^さみ^み娘^{むすめ}ー^ーそ^その^のま^まま^まま^まの^のま^まま^まま^まの^のま^まま^まま^まま^ま
 り^りせ^せニ^ニト^トニ^ニト^トの^のま^まま^まま^まま^まま^まの^のま^まま^まま^まま^まの^のま^まま^まま^まま^ま
 米^{こめ}ハ^ハせ^せり^りさ^さる^る 米^{こめ}ハ^ハレ^レサ^サる^る 米^{こめ}ハ^ハお^お茶^茶瓜^瓜を^をあ^あら^らし^しめ^め丹^{たん}ハ^ハ糸^{いと}
 の^の香^かけ^けー^ー茶^茶を^を揉^もて^てさ^さみ^み娘^{むすめ}ー^ーそ^その^のま^まま^まま^まの^のま^まま^まま^まの^のま^まま^まま^まま^ま

引止め ひんと 米 メ アレサマア 丹 ニ へるんご ト 寄添折 ヨ
 初 つ り り 去 キ 常 ジョウ 瓜 ウ 若 ニ 瓜 ウ 一人 ヒト 未 ミ 是 コノ ハ ハ 米 メ ハ ハ 丹 ニ 以 ヨ 存 ゾ ガ ガ 瓜 ウ
 ち チ り リ と ト 佐 サ め メ の ノ 若 ニ ひ ヒ る ル が ガ 早 サ 且 シ よ ヨ ぬ ヌ 瓜 ウ

一 一 神 シ の ノ 精 シユ の ノ 結 ケツ の ノ 結 ケツ の ノ 結 ケツ の ノ 結 ケツ

春色惠の春卷之一



一ヶ谷法門の

移転成任

想

